

令和7年度 キンメダイ太平洋資源評価会議 議事概要

日程：令和7年8月1日（金）10：00～12：00

会場：水産研究・教育機構 水産資源研究所 横浜庁舎講堂（ハイブリッド形式）

概要：

水産研究・教育機構（以下、水産機構）の資源評価担当者により、キンメダイ太平洋を対象として、令和7年度の資源評価報告書案が説明された。会議出席者による検討・議論の結果、資源評価報告書案は承認された。資源評価報告書は議事概要（本文書）とともに、資源評価会議名で水産庁に提出されるほか、一般に公開される。

令和7年度資源評価案の説明・検討

- ✓ これまでの経緯、今年度の変更点として、資源管理、評価に関するこれまでの取り組み、2022年12月に開催された資源管理手法検討部会後の水産庁からの対応依頼とそれに対して今後検討すべき課題などについて説明をした。令和6年度資源評価まで名称「キンメダイ太平洋系群」を、令和7年度評価から「キンメダイ太平洋」に変更することを、関係機関との協議を経て決定されたことについて説明した。
- ✓ 海洋環境を考慮したCPUE標準化手法について、今年度にFRA-ROMSIIがver.2へと更新されたが、令和7年度のCPUE標準化結果から、選ばれた説明変数は昨年度と概ね同じであったと報告した。
- ✓ 八丈島では、他の地区とは異なり、CPUE標準化実施以来、年効果が有意にならないという結果が得られている。八丈島では、漁場が広範に広がるので、海洋環境の影響など、操業条件が悪い海域は操業を避けることができる。したがって、環境要因を考慮し、いくら獲れない状況は他地域ほどではない。1操業で常に同じくらい獲るので年変動が小さいのだろう。今後、操業海域情報の収集などが必要になる。
- ✓ 資源評価の今年度の主な変更点として、選択率を平均する年数を変更した。
- ✓ 資源評価で推定された2024年の親魚量（29.0千トン）は、MSYを実現する親魚量（SBmsy、24.3千トン）を上回った（1.19倍）。また、2024年の漁獲圧は、SBmsyを維持する水準を下回った（0.59倍）。一方で、加入量（2歳魚資源尾数）は横ばいで、2024年の加入量は1,017万尾となった。
- ✓ 参画機関からは、今年度評価は比較的良好な資源状況を示しているものの、加入の不確実性は大きく、目に見えない減少要因があるのかどうか、漁業者と情報共有を行い、より綿密に状況把握に努めるべきだとの意見があった。
- ✓ 加入状況の的確な把握は本資源の資源評価実施以来の課題である。現状全年でプールしているAge length keyを改善していくことは今後検討すべき課題の整理での記載の通り、改善に向けた第一歩になるかもしれないと議論した。
- ✓ 小型鯨類等による食害については、資源評価の高度化によって改善するものではないが、黒潮大蛇行の収束によっては現状の漁況に変化が起こる可能性があるなどの議論がなされた。また、鯨種やハビタットタイプ（回遊性か定着性）によって生態が異なる。例えば、カマイルカは季節的に南北回遊行い、ハンドウイルカは比較的定着性の強い。このように、季節分布・回遊も種によって違

いがある。漁業被害を与える種の特定が今後可能かどうか議論があった。

有識者講評：

- ✓ 今年度については、資源状態は比較的良く、平均的な加入があればそれなりの漁獲量が期待されると理解した。一方、検討課題の中で議論があったが、加入量の的確な把握や年別年齢別尾数の推定精度向上など、一筋縄ではいかないと感じた。今後、黒潮大蛇行が収束したら、海況および漁獲状況がどう変わるかは引き続きモニタリングが必要である。マンパワー的にも厳しいと思われるが、頑張って資源評価に利用できるデータを蓄積することを期待する。

その他

- ✓ 特になし

以上